

神戸アートビレッジセンタープロデュース

カンパニーデラシネラ

カルメン

構成・演出

小野寺修二

演出アシスタント 藤田桃子

テキスト

山口茜



片桐はいり

きたまり

中川晴樹

森川弘和

生駒里奈

エヴァンズ・ポール

大熊隆太郎

小島功義

斉藤直樹

角裕子

竹内英明

田中啓介

傳川光留

中島加奈子

花島令

星野哲也

2013年1月24日(木)〜27日(日)

神戸アートビレッジセンター

神戸アートビレッジセンタープロデュース

カンパニーデラシネラ カルメン

〈プロセル・メリメ原作「カルメン」より〉

構成・演出:小野寺修二

演出アシスタント:藤田桃子

テキスト:山口 茜(トリコ・A)



今まで演出した中で、出演者が一番多い作品になりました。

去年面白いと思っていたことが今年の色褪せてみえたり、昨日言っていたこととまるで違うことを次の日言い出したり、自分にとっての「正しさ」は未だシンドロモドロで、

ああ言ってみたり、こう考えてみたり試行錯誤です。自分にとっての「正しさ」の尺度を、いまだ持っていない。

でも、並べてどちらが「正しさ」に近いかは言える気がする。年を重ねることは、近い方、を選ぶ経験を重ねることだと、思うことがあります。

今回、たくさんの人とご一緒することは、尺度を問われる、

と緊張していて、まずは正直に白状しておこうと思うのです。

小野寺修二

片桐はいり きたまり(KIKIKIKIKIKI) 中川晴樹(ヨーロッパ企画) 森川弘和
生駒里奈 エヴァンズ・ポール 大熊隆太郎 小島功義 斉藤直樹
角 裕子 竹内英明 田中啓介 傳川光留 中島加奈子 花島 令 星野哲也

〔スタッフ〕舞台監督:大田和司 照明:吉本有輝子 音響:椎名晃嗣

衣装:田中秀彦(ironic ediHt DESIGN ORCHESTRA) フライヤーデザイン:チャーハン・ラモーン

2013年

1月24日(木) 19:30~

25日(金) 19:30~

26日(土) 14:00~

18:00~

27日(日) 14:00*~

★終演後、演出家と出演者によるトークを行います。

※開場は開演の20分前

〔会場〕

神戸アートビレッジセンター
2F KAVCホール



神戸高速「新聞地駅」東8番出口より 徒歩約5分
JR「神戸駅」北出口より 徒歩約10分
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より 徒歩約15分

〔料金〕(日時指定 整理番号付白山席)

一般=3,500円

学生=2,500円 (要学生証提示)

◎一般早割3,000円[2012年12月31日受付締切]

◎ペアチケット6,000円[2枚セット/前売限定/劇場のみ取扱]

〔チケット取扱い〕

神戸アートビレッジセンター

078-512-5500 <http://www.kavc.or.jp/tickets/>

チケットぴあ

0570-02-9999 [Pコード424-855] <http://t.pia.jp>

★12月8日(土)チケット発売開始

〔お問い合わせ〕

神戸アートビレッジセンター 078-512-5500



撮影:石川純

小野寺修二(おののらしゅうじ)

作・演出家/振付家/パフォーマー/
カンパニーデラシネラ 主宰

北海道生まれ。日本マイム研究所を経て、95年、パフォーマンスシアター「水と油」を結成し、マイムをベースにした洗練された新しい身体表現のスタイルを打ち出し、国内外で注目を集める。03年、第2回朝日舞台芸術賞の「香山修司賞」と「キリンダンスサポート」をダブル受賞。06年、「水と油」の活動を休止。06年9月より1年間、文化庁新進芸術家海外留学制度の研修員としてフランス・パリに滞在。自身の創作活動のほか、子どもワークショップなどのアウトリーチや演劇・ミュージカル・CMの振付・出演など活動の幅を広げている。作品はバントマイムを主体とした身体表現で、寓話性のある舞台を創ることを旨とし、世代を超えた観客層に定評がある。09年、第3回ダンスフォーラム賞受賞。11年、「叔母との旅」のステージングや「ハーバー・リーガン」の振付を高く評価され、第18回読売演劇大賞 最優秀スタッフ賞受賞。

◎主な演出作品

神戸アートビレッジセンタープロデュースとして、08年初演『Xのフーガ』と改訂再演『Xのフーガ』10、11、『空白に落ちた男』08、『ある女の家』08、『あらかじめ』09、松本清張作『点と線』09、カミュ作『異邦人』10、ギリシャ悲劇『オイディプス』11、ドストエフスキー作『カラマーゾフの兄弟』12、別役実作『白々の暮らし方』12など。

◎ステージング・振付作品

『中国の不思議な役人』09・白井晃演出、『叔母との旅』10・松村武演、『ハーバー・リーガン』10・長塚圭史演出、『金閣寺』11・宮本亜門演出、『こどもの一生』12・G2演出など。



<http://kavc.or.jp>

